

令和5年度 重点目標達成のためのアクションプラン

氷見市立十二町小学校

＜本年度の重点目標＞

「自立」 ～自分で見付け、自分で考え、自分で判断して行動する子供の育成～

	アクションプラン1		アクションプラン2		アクションプラン3	
重点課題	主体的に学習に取り組む態度の育成		思いやりの心の育成		健やかな体づくり	
前年度の課題	・対話タイムや授業等で多様な考えに触れる機会を積極的に設けることができた。今年度は、意欲的に家庭学習に取り組むことができるように、取り組み方についての手立てを工夫していきたい。 ・教材研究や発問等子供たちが意欲的に学習に取り組めるように工夫したことで、友達と関わり合い、楽しんで学習に取り組む姿が見られた。今後も子供たちが主体的に学ぶ授業づくりを継続していきたい。 ・「ほかほかの木」や「ほかほか週間」を設定したことで、思いやりのある言動をとる児童が増えてきた。また、挨拶をする子供は増えてきたが、「相手の目を見て」や「気持ちを込めて」等、気持ちのよい挨拶をする子供は少なかった。そこで、今年度は、引き続き「ほかほかの木」や「ほかほか週間」を設定するとともに、子供が主体となり気持ちのよい挨拶を広めることができるように手立てを工夫する。 ・ゲームやSNS等のメディア利用時間について、「すこやかチェック」や「十二町小学校メディアルール」等と関連付けて目当てをもたせたり、児童保健委員会による呼びかけを行ったりした。また、メディアの利用時間を「学習」と「お楽しみ」に分けたり、長時間のメディア利用の身体への影響について知らせたりしたことにより、メディア利用について意識する子供が増えてきた。引き続きメディア利用の仕方を見直し、生活習慣を改善できるように手立てを工夫する。					
具体的な達成目標 (数値目標)	・「なぜだろう」「もっと知りたい」と自分で課題を見付け、進んで学習に取り組む児童が75%以上 (児童自己評価・保護者評価：4段階評価のA・B評価)		・気持ちのよい挨拶をする児童が85%以上 (児童自己評価・保護者評価：4段階評価のA・B評価)		・1日のメディア利用時間が2時間以内の児童が80%以上(休日は3時間以内) (児童自己評価・保護者評価：4段階評価のA・B評価)	
行動Ⅰ (方策)	<方策1> ・教材の提示の仕方や学習環境、対話や表現する場等を工夫し、子供が課題意識をもって主体的に学習に取り組むことができる授業づくりに努める。 <方策2> ・家庭でも課題意識をもって学習できるように、学びのステップアップ週間では、家庭学習の取組についてのワークシートを用いたり、家庭学習コーナーを設け、児童の家庭学習ノートの工夫を紹介したりする。		<方策1> ・挨拶について代表委員会で話し合う機会を設け、方策を考え、実践・振り返りを行うことで、子供が主体となって挨拶運動を進めることができるようにする。 <方策2> ・「ほかほかの木」を設定し、気持ちのよい挨拶や思いやりのある言動等についてカードに記入する。掲示したり、放送で全校児童に紹介したりすることで、気持ちのよい挨拶をしようとする意欲を高める。		<方策1> ・「すこやかチェックカード」や児童保健美化委員会による提案活動を生かしてメディアの利用時間の目当てをもたせたり、頑張っている子供の取組を紹介する場を設けたりすることで、適切なメディアの利用時間を意識付ける。 <方策2> ・学級指導や個別指導を充実させ、自分の決めたメディアのコースの利用時間を守ろうとする意欲を高める。	
中間評価	<方策1> A	<方策2> B	<方策1> A	<方策2> B	<方策1> A	<方策2> B

	・児童が課題意識をもって主体的に学習に取り組むことができる授業づくりに努めている教員は9割以上であった。しかし、「知りたい」「やってみたい」という思いをもって学習に取り組んだ児童は78%であるため、児童がより主体的に取り組める授業づくりに努める必要がある。 ・「学習したことや興味のあることに対し、進んで家庭学習を行った」と答えた児童は68%、「家庭で興味・関心をもって調べたり、確かめたりしながら学習する姿が見られた」と答えた保護者は64%と目標を下回った。その要因の一つとして、家庭学習紹介コーナーの設置が遅れ、周知する時間が短かったことが考えられる。2学期は家庭学習紹介コーナーの更新を定期的に行い、興味のあることを楽しんで学習する家庭学習の在り方を推進するとともに、学習発表会等の学校行事の場を活用しながら子供たちの取組等を保護者にも広めていく必要がある。	・「学校、家庭、地域で気持ちのよい挨拶をしている」と答えた児童は、85%以上であった。また、「家庭で気持ちのよい挨拶をしている」と答えた保護者は85%以上であった。6月に代表委員会や6年生が中心となって、気持ちのよい挨拶についてのポイントを話し合い、挨拶運動を行ったことにより、学校全体で挨拶に対する意識を高めることができたと考える。一方で、「子供は地域の人に気持ちのよい挨拶をしている」と答えた保護者は、78%であった。学校だけでなく地域の方に対しても気持ちのよい挨拶ができるようにしていく必要がある。 ・「ほかほかあいさつの木」を設け、挨拶について自分ができることや友達のよいところ等について記入したカードを掲示したことで、気持ちのよい挨拶への意欲を高めることができた。今後は、挨拶週間だけでなく日常的に「ほかほかあいさつの木」の取組を行い、全校児童にみんなの挨拶のよさを広めていく必要がある。	・すこやかチェックの期間中にメディアの利用時間を少なくしようとした児童は82%、保護者は81%である。すこやかチェック期間以外になるとやや減り、児童74%、保護者79%で、普段からメディアの利用時間に気を付けていることが伺われる。「とても思う」に回答した児童がすこやかチェック期間中は普段の23%から40%に増加することからも、すこやかチェック期間は、児童のメディア時間を減らすのに効果があると考えられる。しかし、「あまり思わない」が一定数いるので、今後もメディアの利用について考えていく機会を設けていく必要がある。 ・保健集会で長時間のメディアの利用が頭や目に及ぼす影響について体験する場を設定したことにより、メディアの時間を守ろうとする意欲を高めることができた。今後は学級指導等を通して、メディアについて考える機会を増やしていきたい。
中間評価公表	ホームページ・学校だより		
行動Ⅱ (方策)	<方策1> ・子供が主体的に取り組むことができるよう、行動Ⅰの方策に加え、対話を通しての学び合いの場や、学習したことを振り返り、次の学習につなげる場を大切にする授業づくりに努める。 <方策2> ・学びのステップアップ週間における家庭学習ノートの掲示を引き続き行う。その際、それぞれの取組のよさを学級内で見付け合ったり、他の学年のノートを見て参考になったことを紹介したりすることを通して、子供たちの家庭学習に対する意欲を高める。	<方策1> ・行動Ⅰの方策を継続する。代表委員や6年生で挨拶に関する現状や課題、方策等を話し合い、全校児童が主体的に挨拶運動に取り組むことで、気持ちのよい挨拶への実践意欲を高める。 <方策2> ・実践した気持ちのよい挨拶についてカードに記入し、「ほかほかあいさつの木」に掲示する。また、カードの内容について適宜放送し、全校児童に広める。	<方策1> ・「すこやかチェックカード」や児童保健美化委員会による提案活動とともに、「我が家のメディアルール」を作り、適切なメディアの利用時間をさらに意識付ける。 <方策2> ・学級指導や個別指導を充実させ、自分の決めたメディアのコースの利用時間を守ろうとする意欲を高める。

【評価基準】

- ・「方策」 A…目標達成に効果があった B…目標達成にやや効果があった
C…目標達成にあまり効果がなかった D…目標達成に効果がなかった
- ・「総合評価」 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった